

8309 詩の言葉とは、犬なら犬という、或る外部にあるもの・・・

詩の言葉とは、犬なら犬という、或る外部にあるものをただ指示する言葉ではなく、言葉そのものが存在にならなきゃいけない。つまり、言葉が外部の事物、あるいは自分の感情でもいいですけども、そういうものを指示するだけのものではなくって、言葉自体が存在であると、僕自身はそういうふうに考えて詩を書いています。

那珂太郎『詩のことば』

[許容訳例]

The words of a poem are not words which only indicate certain external things such as dogs; the words themselves must have existence.

The words do not only indicate outside objects, or one's own feelings, but themselves have being. I, at least, write poems with this idea.

[翻訳例]

The language of poetry must not be content to denote certain external things—to call a dog, say, a dog—but must have an existence of its own.

The words, in short, are not things that merely serve to indicate objects outside one—or one's own feelings, for that matter—but exist in their own right, that, at least, is my own idea in writing poetry.

■詩の言葉とは、犬なら犬という、或る外部にあるものをただ指示する言葉ではなく、言葉そのものが存在にならなきゃいけない。(8309)

★「詩の言葉」は「言葉」が後で幾度も出てくるので、ここでは the language of poetry とします。もちろん the words of a poem でもかまいません。なお、words of a poem (一つの詩の無数の言葉)は駄目です。a poem と言った以上、どの poem でもそこに一つの poem が形成されているのですから、特定された words となるわけです。

★「犬なら犬という」は、ここでは「たとえば、犬を犬という」という意味ですから—to call a dog, say, a dog—(この say は for example の意味です)として挿入するか、あるいは「或る外部にあるもの」の例として such as dogs と続けることもできます。ただ、such as dogs は、どうして外部のすべての現象からいきなり犬が飛び出してくるのかよくわからない感じがします。ここはもうちょっと dogs を切り離しておくか、あるいは for example というような言葉を入れるか工夫しないとちょっと物足りないと思います。

★「或る外部にあるもの」は certain external things でしょう。

★「ただ指示する」は simply[only] denote[indicate]ですが、この「ただ」は単に「指示する」を強調するためのように感じられますから simply [only]は無くてもいいと思います。

●「AではなくB」(not A but B)

「ではなく」は、not...but...です。

●「連体修飾節＋体言」（或る外部にあるものをただ指示する言葉）

「或る外部にあるものをただ指示する言葉」は{連体修飾節（或る外部にある）＋不定代名詞的体言「もの」をただ指示する}＋不定代名詞的体言{言葉}という二重の「連体修飾節＋体言」なのですが、「或る外部にあるもの」は certain external things で表すことが出来るので、「連体修飾節（或る外部にあるものをただ指示する）＋不定代名詞的体言（言葉）となり、「名詞(words)＋関係詞節(which only[simply] denote[indicate] certain external things)」と訳すことができます。

◆the ones; those; ones など

主語を The words of a poem にすると、The words of a poem are not the ones[those] which only[simply] denote[indicate] certain external things...としたいくなりますが、the ones [those]は、実際にそこにいろいろな言葉があって、その中のどれかを言う場合に使うことになります。つまり、すでに具体的な言葉をいくつか考えていて、その中のどれかという possibility を表すことになってしまいます。ですから ones ならいいかもしれませんが、ここは words を繰り返して are not words which...とすることによって are not the kind of words という感じになり、文法的には完全な英語になります。あるいは簡単に The words of a poem do not only indicate...と続けてもいいと思います。

●「連体修飾節＋不定代名詞的体言」（或る外部にあるものをただ指示する言葉）（続き）

「或る外部にあるものをただ指示する言葉ではなく・・・」は「名詞(words)＋関係詞節(which only[simply] denote[indicate] certain external things)」として are not the ones[those] which only[simply] denote[indicate] certain external things...のように処理できますが、主語が「詩の言葉」ですから「(詩の言葉は) 犬なら犬という、或る外部にあるものをただ指示するだけではなく・・・」と言い換えることができます。すると、上で述べたように The words of a poem are not content to denote [do not only[simply] indicate] certain external things...とすることも出来ます。さらに、この筆者は「・・・存在にならなきゃならない」ということが念頭にあると思われるので、「ただ指示するだけではなく」のところにも must を使って、The words of a poem must not (be content to) simply denote..., but must...とする方がいいです。

★「言葉そのもの」は the words themselves とか、最初に The language...を使ったのなら (...an existence) of its own などです。

★「存在にならなきゃいけない」は must become existence は駄目です。これでは existence に冠詞が付いていないので、抽象的な概念になってしまいます。つまり、things which exist という意味ではなく‘すべての現象存在’といった意味での existence になりかねません。ただ、The words themselves must have existence なら、文字通りには‘存在することを備えていなければならない’という意味になってまだいいと思います。

■つまり、言葉が外部の事物、あるいは自分の感情でもいいですけども、そういうもの

を指示するだけのものではなくって、言葉自体が存在であると、僕自身はそういうふうに考えて詩を書いています。(8309)

★「つまり」は、ここでは「要するに」という感じですから in short が一番いいと思います。in short と言っても、必ずしも短くなるとは限りません。逆に長くなる場合もあります。他には in other words でもいいでしょう。that is (to say)も間違いではありませんが、後に続く内容がもう少し前と違わなければならないという気がします。ここではほとんど同じ内容のことを繰り返しているのですからちょっと合わないと思います。それに that is to say は会話でよく使いますが、文章ではあまり使いません。たとえば、‘今言ったことをもうちょっと具体的に言えば’という意味で、I’m sorry I can’t come tomorrow—that is to say, I could come, but I have some work that I really must do.のように使います。日本語の「と言うのは」に一番近いのではないかと思います。

★「言葉が外部の事物」の「言葉」は「詩の言葉」のことですから the words です。

★「外部の事物」は outside objects でもいいですが、objects outside one も可能です。この one は oneself と言うことです。

●「あるいは」(選択)

[あるいは] は or です。

★「自分の感情」は one’s own feelings です。

★「(自分の感情)でも」ですが、「自分の感情」は one’s own feelings でいいのですが、「でも」が加えてあります。この「でも」は「言葉が指示するものは外部の事物だけでもないし、また詩人自身の感情だけでもない」、つまり、「その点では自分の感情（といえど）も同じである」というニュアンスが含まれているので、そのニュアンスを出すには for that matter を one’s own feelings, for that matter という配置で加えるといいです。for that matter は、辞典には「そういうことなら、さらに言えば、もっと言うなら、それに関しては」などの訳が付いてありますが、要するに、たとえば、Most Japanese don’t like that kind of things. Nor do I myself, for that matter.という使い方です。つまり、「自分は含まれていないようにとれるかもしれないが、考えてみると自分も同じだ」という感じです。

★「(そういうものを)指示する」は indicate でいいです。point を使うなら point to…です。point out は「本当のことに人の注意を向けさせる」(draw someone’s attention to something that is a fact)という意味です。

★「(・・・する)だけのもの」は「・・・するためにあるだけのもの」ということですから merely serve to…とします。

●「連体修飾節＋不定代名詞的体言」(言葉が外部の事物、あるいは自分の感情でもいいですけれども、そういうものを指示するだけのもの)

「言葉が外部の事物、あるいは自分の感情でもいいですけれども、そういうものを指示するだけのもの」は、簡潔にすると、「言葉は外部の事物や自分の感情を指示するためだけにあるもの」ですから「連体修飾節(言葉は外部の事物や自分の感情を指示するだけにあ

る) + 不定代名詞的体言 (もの)」で、英語では「名詞(things) + 関係詞節(that merely serve to indicate objects outside one)となります。

● [ではなくって]

[A ではなくて B] は not A, but B です。

★「言葉自体が存在である」は、そのまま訳すと the words[they] themselves have being となりますが、前からの続きですから the words[they]は不要でしょう。他には exist in their own right とも言えます。in their own right というのは「それだけで立派な存在で [存在価値が] ある」という意味です。たとえば、The man who did the illustrations for this novel is an artist in his own right.のように使います。

● 文章技巧

「・・・て、言葉自体が存在であると、僕自身は・・・」と、日本文は終わりまで続いています。ここはピリオドで切るか、あるいはセミコロンにするかで、日本文と同じ順序になるように訳す方がいいと思います。

★「僕自身は・・・」には「少なくとも僕自身は・・・」のニュアンスが含まれていますから at least とか、「他人はどうか分からないけど、少なくとも自分はこうしている」という感じで personally とかを加えます。

● 「・・・[て]・・・する」(僕自身はそういうふうを考えて詩を書いています)

「そういうふうを考えて詩を書いています」は「・・・[(し) て]・・・する」ですから、英語では「主動詞 (・・・する) + 句 (・・・[(し) て]・・・)」で処理することができます。この場合、主語の立て方で動詞が変わります。「僕 (自身)」を主語にするなら「主動詞(I write poems) + 句(with this idea[approach]).」とか、英語の文脈に合わせて主語を立てて、「主動詞(that is my own idea) + 句(in writing poetry)」となります。なお、「主動詞(I write poems) + 句(thinking so).」も英文としては間違いありませんが、「以上のことを考えた上で僕は詩を書く」「それが詩を書くに際しての僕の考えである」という趣旨からすると、write に比べて thinking so は比重が軽すぎる (たとえば、I did it sitting at my desk. という場合とお案じように、少し物足りない) ので避けた方がいいでしょう。それから、「そういうふう考えて詩を書いています」は「暫時同時」なので、I think in this way as I write my poems.とすることも出来て、日本文の情報順にすることも出来ます。